



FIJI

フィジー

TEAM PROFILE

前回プール4位/世界ランキング8位
*2019年1月7日現在



HISTORY

歴史

2016年8月のリオデジャネイロ大会で初めて五輪競技に採用された7人制ラグビーで初代王者(男子/金メダル獲得)となったように、セブンズの世界では長くトップに立つ国だ。アクロバチックなパスや変幻自在なランニングでトライを量産するスタイルは「フィジアンマジック」と呼ばれ、ファンに愛される。

15人制ではFWプレーで強豪チームに封じられることも多いがランニングスタイルを前面に押し出す戦い方はセブンズ同様。世界のどこに行っても応援されるチームで、エキサイティングな試合展開でファンを喜ばせる。

過去のラグビーワールドカップには、1995年大会以外は出場し1987年大会と2007年の大会では準々決勝に進出した。

フィジーラグビー協会の創立は1913年と古く、1977年にはブリティッシュ&アイリッシュ・ライオンズに勝つ大金星を挙げたことがある(25-21)。

ROAD TO RWC 2019

近年の足どり

RWC2015では開催国のイングランド代表など、強豪チームが揃う「死のプール」と呼ばれたプールAに入ってしまった。

大会のオープニングとなるイングランド代表戦(11-35)を皮切りに、オーストラリア代表(13-28)、ウェールズ代表(13-23)と戦い3連敗。ウルグアイ代表(47-15)には完勝するもプール4位に終わったことで、2019年大会にはオセアニア地区予選を経て出場権を獲得しなればいけなくなった。

しかし、前回大会のプール4位という成績は不運としか言いようのなかったフィジー代表には、設定されたハードルは高くなかった。RWC2019の予選とされたのは、2016年、2017年のパシフィック・ネーションズカップ。2年にわたるホーム&アウェーの総合成績の上位2か国に出場権が与えられることになったが、フィジー代表はそれを1位で通過した。

サモア代表、トンガ代表と2年で4試合を戦い4勝。危なげなかった。

STYLE

戦力とプレイスタイル

変幻自在のパスワークとランニングで相手を翻弄するスタイルは変わらない。アタックセンスにあふれる選手たちが並ぶ。

今年のパシフィック・ネーションズカップではベテランのFLアカブ・シンゲラが主将を務めた。スーパーラグビー、ハイランダーズで活躍し、現在は日本でもプレーするパトリック・オズボーンもWTBで存在感を見せ、ベストメンパーでなくとも地力があるところ証明した。就任4年目を迎えたジョン・マッキー監督の手腕もなかなかのものだ。

ワラターズ、クルセイダーズ、レベルズなどでスーパーラグビーの経験豊富なSOベン・ボラボラの安定感が増したのは大きい。キックも巧みで、効果的に好ランナーを使えるようになった。FWの強化も進み、今年6月にホームで戦ったイタリア、スコットランドとのテストマッチは、それぞれ22-19、27-22で競り勝った。

強化は順調に進んでいる。

FACT FILE

協会創立▶1913年
エンブレム▶椰子の木
チームネーム▶Flying Fijians フライイング・フィジアンズ
ウォークライ▶Cibi ジンビ
ウェブサイト▶www.fijirugby.com

f /fijirugby
t @fijirugby
i @fijirugbyunion

RWC RESULTS

1987 準々決勝敗退
1991 プール戦敗退
1995 出場せず
1999 準々決勝プレーオフ敗退
2003 プール戦敗退
2007 準々決勝敗退
2011 プール戦敗退
2015 プール戦敗退

HEAD COACH

ジョン・マッキー
John McKee



1957年2月16日、ニュージーランド生まれ。フランス(モンフェラン)やアイルランド(コナート)などでコーチ経験を積み、パシフィック・アイランダーズやトンガ代表、U20豪州代表の指導も。国際経験もある。2013年からハイパフォーマン・ゼネラルマネージャーを務めたのち、2014年から現職に就いてチーム強化にあたってきた。RWC2015では決勝トーナメントに進出できなかったが、そのときの試合内容、その後の戦績が評価されて指導歴を伸ばしている。

PLAYERS TO WATCH

LO
レオネ・ナカラワ
Leone Nakarawa

200㌔で120㌔という巨体も走力あり。2016年のリオ五輪金メダリスト。現在はフランス、トップ14のランニング92に所属している(それ以前はスコットランドのグラスゴー・ウォリアーズでプレー)。ハンドリング能力が高く、片手でボールを持って走り、自在にパスを操る。



WTB
ネマニ・ナンドロ
Nemani Nadolo

かつて日本のトップリーグで2度トライ王にもなった(2011年度から4シーズン在籍)。194㌔、125㌔の巨体を誇る世界的WTBで、スーパーラグビーのクルセイダーズでも活躍し、フランス、トップ14のモンペリエでもトライを重ねる。



RWC2019 同プール対戦チームとの過去大会対戦成績

v オーストラリア代表 ● 12-55 RWC2007 (POOL B)
 ● 13-28 RWC2015 (POOL A)
 v ウェールズ代表 ○ 38-34 RWC2007 (POOL B) 対戦なし
 ● 0-66 RWC2011 (POOL D)
 ● 13-23 RWC2015 (POOL A)
 v ジョージア代表 ○ 47-15 RWC2015 (POOL A)